

農福連携等応援コンソーシアムへの参加

本コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、本コンソーシアムの趣旨にご賛同いただき、参加いただける団体や企業の方の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会にノウフクの輪の拡大に向けて、入会をお待ち申し上げます。

入会方法

コンソーシアムに関する詳細は、[ノウフクWEB](https://noufuku.jp)をご覧ください。

コンソーシアムへの入会をご希望される団体や企業の方は農福連携等応援コンソーシアム規約に同意いただき、申込書に必要事項を記入の上、農林水産省農村振興局都市農村交流課 農福連携等応援コンソーシアム事務局までお申し込みください。

幹事会の承認を得て、コンソーシアムにご入会いただくことができます。

●農福連携等応援コンソーシアムについて

<https://noufuku.jp/consortium/>



農福連携等応援コンソーシアムの規約、入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードいただけます。

お問い合わせ

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話 03-3502-8111 (内線5448)

メール noufuku@maff.go.jp

一般社団法人 日本基金

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-4 大京ビル松住町別館401号

電話 03-5295-0070 FAX 03-6206-0117

メール info@nipponkikin.org

※ノウフク商品の取り扱いに関するお問い合わせは、日本基金までご連絡ください。



みんなで耕そう!

ノウフク

NOUFUKU PROJECT

農福連携でつなぐ
社会と企業の
サステナブルな関係



農福連携

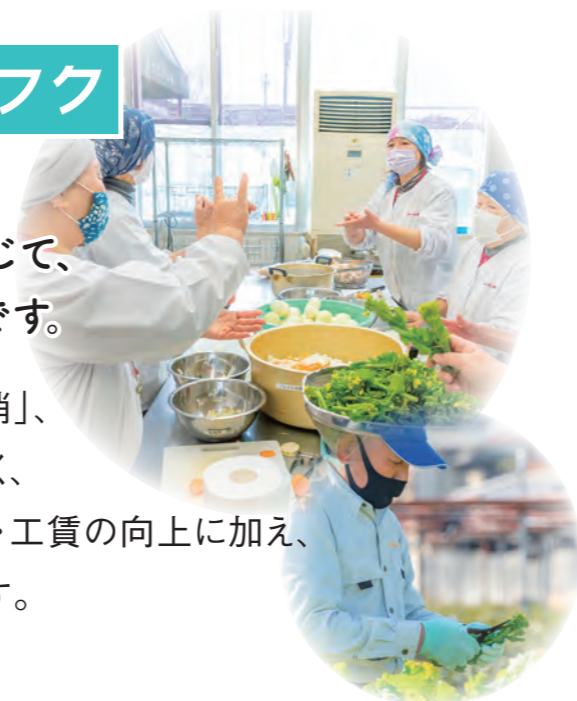
農林水産業

×

福祉

=

ノウフク



農福連携とは、障害者の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組です。

この取組によって、農業分野における「担い手不足の解消」、「産地の維持」といった課題の解決が期待されるだけでなく、障がい者にとっても、農業を通じた働く場の確保や、賃金・工賃の向上に加え、地域との交流の促進等の生活の質の向上が期待されます。

1. ノウフクが貢献するSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

農業を通じて個々の活躍を目指す農福連携は、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会の実現につながる取組です。



3. ノウフクでつながる三方良しのマーケット

ノウフク商品が売れると、企業や生活者だけではなく、社会にとって利益になります。障がい者の働く場所が広がったり、農業の人手不足が解消したり、地域課題の解決につながります。企業にとっては、長期的な企業価値の向上が見込めます。この豊かな循環が社会に持続可能性を生み出すのです。

さらに、地球環境や人権などに配慮した商品・サービスを選ぶエシカル消費（倫理的消費）に注目が集まっており、企業がノウフクを応援する機会は広がっています。



株式会社ウィズファーム ²³ グランプリ

長野県松川町で障がいのある人と共にリンゴを生産するウィズファームではノウフクJASを取得以降、仲卸業者などからの問い合わせが急増し、大口の取引が決まるなど飛躍的に販路が拡大しました。ノウフクJASリンゴは銀座にある長野県のアンテナショップで市場を大きく上回る価格で販売されているにも関わらず入荷後即日でも売り切れるほどの人気商品です。また、同社が販売するリンゴジュースはその社会的価値が評価され2021、22年の「おもてなしセレクション」に選出されました。

千房ホールディングス株式会社

× 株式会社和光ワールド

²² フレッシュ賞



身近に広がるノウフクの輪



一般社団法人こうち絆ファーム ²³ フレッシュ賞

高知県安芸市を拠点とする就労継続支援B型事業所で、障がい者、ひきこもりの状態にある者、触法者など多様な人材が、なすやおくらの栽培、収穫、袋詰め作業に関わっています。工賃を完全出来高制とすることで個々の目標が明確になり、工賃向上や一般就労への移行を実現しているほか、過去にひきこもりの状態だった方は新規就農を実現しました。さらに、収穫体験（なす狩り）を実施し、特別支援学校等の子どもたちへの食育にもつながっています。

大阪に本社を置く外食チェーン「千房」は、2021年11月からノウフクきくらげを使った冷凍お好み焼（モダン焼）を販売しています。ノウフクJAS認証を受けた愛媛県伊予市の株式会社和光ワールドのきくらげを使い、共同開発しました。千房は、刑務所出所者などの社会復帰を支援する「職親プロジェクト」に取り組んでいます。また、和光ワールドで生産されるきくらげの売上は、就労する障がい者の工賃*として還元され、自立支援に役立っています。
*就労継続支援B型などの就労支援を通じて生産活動を行った者に対して支払われる対価。

◀ きくらげの収穫作業の様子（写真左） / 「千房国産きくらげ入り豚モダン焼」(同右)

2. 高まるノウフクの機運 農福連携等応援コンソーシアムの設立

近年、農福連携の取り組みが全国的に拡大しており、農林水産省の調べでは2022年度末時点で、全国で6,300以上もの事業者が農福連携に取り組んでいます。政府では、2019年に農林水産省や厚生労働省といった関係府省、有識者から構成される農福連携等推進会議が開催され、当会議において「農福連携等推進ビジョン」が制定されました。ビジョンをもとに、さらに2020年3月、各界の関係者が参加する農福連携等応援コンソーシアム（以下「コンソーシアム」）が設立され、2024年4月現在、賛助会員も含めて539の団体、企業、自治体等が会員となっており、共に農福連携の機運を高めています。

「耕すみんなを応援する」

コンソーシアムでは、「耕すみんなを応援する」というスローガンの下、ノウフクの社会的認知の向上はもちろんのこと、ノウフク商品の売上向上や多様な立場の人の相互理解を図り、未来につながる持続可能なノウフクのあり方を探求することなどを具体的な目的として活動を行っています。

農福連携等応援コンソーシアム

国・地方公共団体、関係団体等もとより、経済界や生活者、さらには学識経験者など、さまざまな関係者を巻き込んだ国民的運動として推進しています。

参加省庁 農林水産省 厚生労働省
法務省 文部科学省

会員 経団連、JA全中 など 38団体

賛助会員 501団体

※令和6年4月時点。

コンソーシアムの主な活動

優れた取組を表彰する
ノウフク・アワード

企業とノウフク現場がつながって課題を解決する
ノウフク・ラボ



オンラインショップ



ノウフク
ONLINE SHOP



2018年10月にオープンした、ノウフク商品が買えるECサイトです。現在、19生産者の魅力あふれる商品を取り扱っています。